

ちいきの大学

■ Contents

- 豊明市との包括協定締結 ●みよし市コミュニティ活動推進リーダー研修会
- 知立よいとこ祭りでの連携 ●碧南市教育委員会との連携
- スポーツ指導者養成講座 ●高浜市教育委員会との連携
- リソースルーム講演会 ●名古屋市生涯学習推進センター主催の大学連携協議会
- 学生たちと共に取り組む 地域との連携による活動
- 地域連携フォーラム 2012



愛知教育大学は教育界をはじめ広く社会と連携し、社会からの要請に応じて、教育研究の成果を還元し、社会の発展に貢献します。



ちいきの大学をめざして

地域連携センター長 都築 繁幸

大学の周辺には、溜池が数カ所あります。地図を見れば鮮明にわかりますが、近くを散歩するだけでは気づかないことが多くあります。大学の東側に洲原池がありますが、これが最も大きい池です。この池に隣接して洲原神社があります。この神社は、1655年にこの地の住民が五穀豊穡を願い、雨乞いの神として名高い美濃国（岐阜県美濃市）にある洲原神社の分社として創建したのが始まりだとされています。現在の洲原池は、灌漑用の溜池としての役割を持ちながらも、公園化され、池の周囲には、約2kmの遊歩道が整備され、洲原公園の一部として市民の憩いの場となっています。遊歩道が洲原公園から刈谷ハイウェイオアシスまで造られ、そこは、伊勢湾岸自動車道のパーキングエリアとして全国の高速道路網へとつながっています。

本学は、「ちいきの大学」、「AUE News」、「大学ホームページ」等、様々な媒体を通じて地域社会と連携し、知のネットワークを構築しようとしています。

豊明市との包括協定締結

7月31日(火)、豊明市役所で本学と豊明市との連携協力に関する包括協定締結式が行われ、松田正久学長と石川英明市長が協定書に署名しました。



松田学長と石川市長が握手

本学は、これまでに豊明市において外国人児童生徒の学習支援などの実績がありますが、包括協定の締結により今後は教育研究や生涯学習、文化・スポーツ、地域産業などの幅広い分野での相互協力が図られることとなります。包括協定の締結は、刈谷市、知立市、安城市、みよし市に次いで5市目になり、尾張地区としては初めてのこととなります。

石川市長は、「本年度豊明市は市制40周年を迎えます。市にとって記念の年に愛知教育大学と包括協定を締結できることは大変意義深いことでもあります。この協定を足がかりとして、豊明市と愛知教育大学の発展とともに、様々な情報発信に役立てていきたい。」と期待をこめて話されました。

みよし市コミュニティ活動推進リーダー研修会

8月1日(水)にみよし市にて「地区コミュニティ活動推進リーダー研修会」が開催されました。本学の生島亜樹子講師が「コミュニティ活動を通して地域関係づくりを推進するために一子どもの学びから『地域』と『学校』との関係を考える」というテーマで講演し、区会長をはじめとする約70名が参加しました。

特に参加者の関心が高かったのは、学校教育と子どもの学びの変化に関する内容でした。多くの参加者が子ども時代を過ごした昭和20年代の教育について当時の教科書の画像をもとに説明がなされ、参加者からは昔を懐かしむ声とともに、子どもたちが地域や生活の中で学ぶことのよさを、今の教育にも活かそうだという意見が出されました。地域のつながりや絆が見直される中、本学が地域社会の担い手としての子どもの学びや育ちをとおして、地域との一層の連携・協働を深めていくことが期待されます。



知立よいとこ祭りでの連携

8月18日(土)に知立駅前周辺で開催された知立よいとこ祭りに、多くの学生が初めて参加協力させていただきました。

このうち美術教育専攻・選修の学生9名と幼児教育選修の学生4名は互いに協力し合って、地域の子どもたち約120名に、ビニル製の傘袋に色鮮やかな飾りを装飾してから飛ばして遊ぶことができる作品づくりを山本学園体育館にて指導しました。また手芸サークルの学生3名は、自ら手づくりした作品約150点を屋外テントにて展示販売しました。この他、幼児教育選修の学生4名は、19時から行われた路上踊りのコンテスト部門の審査員として、踊りの審査をしました。



碧南市教育委員会との連携

碧南市役所で外国人児童生徒教育担当者が、9月5日(水)に開催されました。この会議に本学から地域連携センター兼担任員である上田崇仁准教授始め外国人児童生徒支援部門リソースルームスタッフ3名が派遣されました。

この会議は、碧南市内の7小学校・5中学校から外国人児童生徒教育担当者13名が出席されていました。会議の冒頭に上田准教授より、本学が開発した日本語初期指導セットの活用について説明があり、実際に教材を手にとって質疑応答がなされました。



上田准教授は、外国人児童生徒への日本語指導のポイントを「できるようになる」の具体化・生活化であると話されました。「何ができるようになるか」「実生活で何に使えるか」など運用力を身に付けさせることが大切であると説明され、日本語初期指導セットは日本語指導と教科指導の橋渡しの役目も担っていることを分かりやすく解説されました。

スポーツ指導者養成講座

本学では包括協定を締結している安城市のスポーツ指導者養成講習会の講師選定と講師派遣を行っています。

講習会は安城市とNPO法人安城市体育協会が共催で行っている事業で、安城市内のスポーツ指導者養成と質の向上を目的としています。講習会のカリキュラムはスポーツ指導者に必要な知識の提供と技能講習の計8回の講座から成ります。指導者は小中学校での部活動を始め多岐にわたるスポーツ教室に関わっている方々なので、講座は子どもから大人までのスポーツ指導に関わる幅広い内容で行われています。



9月5日(水)は「スポーツ栄養学」のタイトルで栄養と身体づくり・疲労回復に関する講義を、地域連携センター兼担教員である鈴木英樹教授が実施しました。その他「スポーツ心理学」、「スポーツ社会学」、「トレーニング」を専門とする教員が講師として協力しています。興味のある方は安城市体育館内の体育協会(0566-75-5182)までお問い合わせください。

高浜市教育委員会との連携

高浜市いきいき広場で愛知教育大学と高浜市教育委員会との連携公開講座が、10月13日(土)に開催されました。

講師は、地域社会システム講座の伊藤貴啓教授、テーマは「特命全権大使のみたオランダの現在」で、明治初期の岩倉使節団のみたオランダの様子を紹介しながら、オランダのイメージ・風車やチューリップの国と現代オランダ社会の特質について詳しく説明されました。



1871(明治4)年11月、岩倉具視を特命全権大使とする遣米欧使節団が横浜から米欧諸国歴訪へ出発しました。目的は近代日本の創建にあたり、司法・議会制度・教育・産業などさまざまな分野を学ぶとともに、不平等条約改正の下交渉を行うものでした。

オランダは日本からみれば小国といえるかもしれないが、かつての歴史的繋がりを持ち出すまでもなく、日本の現在やEUのことを考えると、オランダに学ぶこと、学ぶべきことは多いのではないかと、伊藤教授はまとめられました。

リソースルーム講演会

11月3日(土)、恒例となっている外国人児童生徒支援に関する講演会を開催しました。広く県内外から約80名の参加者がありました。今年のテーマは「外国人児童生徒支援を多角的に考える」です。二部構成で、第一部は元サンパウロ州教育局の日野寛幸先生が「ブラジルでの自己教育体験と帰伯児童教育現場」と題してお話くださいました。教育局にお勤めであったということから、日本から戻った子どもたちにどんな困難があるのか、統計資料を紹介しつつ話していただけました。



第二部では、小牧市立小牧南小学校教諭の佐藤和吉先生が「個別の教育支援を必要とする子どもたち」と題して、子どもたちの様子のわかる映像を紹介しつつお話くださいました。現場の状況を熟知していらっしゃるお二人のお話はとても印象深く、また、今後の活動の糧になるものでした。

名古屋市生涯学習推進センター主催の大学連携協議会

11月8日(土)に名古屋市生涯学習推進センターで大学連携協議会が開催され、本学も参加しました。23の大学・短大と名古屋市教育委員会生涯学習課・生涯学習推進センターが参加し、センターと大学とが連携し、公開講座を実施することにより市民の多様な学習要求に応えるために協議が行われました。公開講座は、大学とセンターが協力して実施する共催事業と位置付けられます。

本学は、大学連携講座として職業観・労働観の育成講座「親子で学ぼう！経済のしくみ」を実施しています。この講座は、大学の教員と産業界(証券・銀行)の方とともに、親子(小中学生)で経済のしくみを体験的に学習するとともに、親子で産業界の方の話を聞き職業についての理解を深めるものです。

平成25年度の前期講座で本学として「親子で学ぼう！」の講座開催を増やす方向で、センターに要望しているところであります。



学生たちと共に取り組む 地域との連携による活動

地域連携センター兼担教員／美術教育講座 教授
樋口 一成

1997年4月に、名古屋市東山動植物園の開園60周年記念イベントの一つとして、園内の森で子どもたちに枝を使って作品を制作する活動への協力依頼のお話をいただきました。この活動では、イベント当日、参加を希望する子どもたちが随時活動に参加する形式とのことで、多くの子どもたちの参加が予想されました。そこで、多くの学生たちの協力が必須であると考え、その当時の美術科の学生たちに声を掛けるところ、15名もの学生たちの協力を得ることができました。

今振り返ってみると、このときの活動が、私にとっては地域と連携した最初の活動ということになります。活動を終えてみると、参加してくれた学生たちは、とても嬉しそうな笑顔で、「子どもたちと一緒にものづくりをすることができて、とても楽しかったです。」「今後同じような活動の機会があれば、ぜひまた参加させてください。」と話してくれたことから、地域と連携した活動に大きな手応えを感じたことを覚えています。

この活動の後、刈谷市・知立市・三好町・稲武町・岐阜県美山町・安城市立桜町小学校・犬山市立東小学校・足助町立御蔵小学校・豊田市立土橋小学校・東郷町立東郷中学校・トヨタ自動車株式会社・株式会社デンソー・刈谷市南部生涯学習センター・文化フォーラム春日井・高浜市いきいき広場・中部デザイン協会等、多くの地域の方々や機関と連携させていただき、学生たちと共に活動してきました。

2009年10月、本学に地域連携センターが誕生し、地域と連携したり学外で活動したりするための環境が、1997年当時と比べてたいへん整ってきました。今後、大学と地域との連携は益々強化されていきますが、私の研究室でも地域との連携による活動に、学生たちと共に今後も積極的に取り組んでいきたいと思っています。(※連携先の名称は、すべて連携当時のもの)



東山動植物園内の森での活動「枝であそぼう」(1997年4月27日)

地域連携フォーラム 2012



11月10日(土)、午後1時から本学大学会館にて「地域連携フォーラム2012」が開催されました。第5回目の開催となる今年は、学生の地域での活動にスポットを当て、「愛知教育大学の地域連携における活動と今後の展望」をテーマに行われました。フォーラムでは、「外国人児童生徒の学習支援」、「刈谷駅前商店街との連携」、「知立市ハンドボール教室」、「地域企業のサポートを受けた活動」などの関係者と学生による報告や、学生のみによる「吹奏楽団の活動」、「レクリエーションクラブの活動」、「幼児体育教室」の報告があり、本学学生の多方面にわたる活躍に驚かされました。出席者の中には他大学の地域連携に関する部署の方、地元商店街、行政関係者等、幅広い業種の方々に参加され、大学の地域連携に対する期待の高さが伺われました。また、パネルディスカッションでは、本学学生



の地域連携活動の際の問題点や、大学側が学生の活動をいかに捉えて教育に反映させていくか等の問題に関しても意見が交わされました。終了後は、多くの参加者から本学学生の素晴らしい活動や学生自身の認識の高さに感心したとのお意見をいただきました。

